

第62回日本小児保健協会学術集会 シンポジウム 3

乳幼児健診；現在・過去・未来

乳幼児健診を子育て支援の場に

納 富 博 子 (佐世保市子ども未来部子ども保健課)

佐世保市の概要

佐世保市は、長崎県の北部に位置し、人口は約25万5千人を有するハウステンボスでも有名な観光都市です。また、米海軍基地や陸・海上自衛隊もあり、転出入が多く子育て支援事業としては早い時期から高い意識を持ち取り組んできたと言えます。

母子保健の概況

- 高齢化率 26.5%
- 合計特殊出生率 1.82%
- 人口千人対出生率 9.1%
- 出生数 2,392人 (平成25年)

人口は少しずつ減少傾向にあります。高齢化率は高い傾向で核家族化が進んでいます。合計特殊出生率は県、全国と比較し高くなっています。

図1は佐世保市の保健福祉分野の機構図です。★印

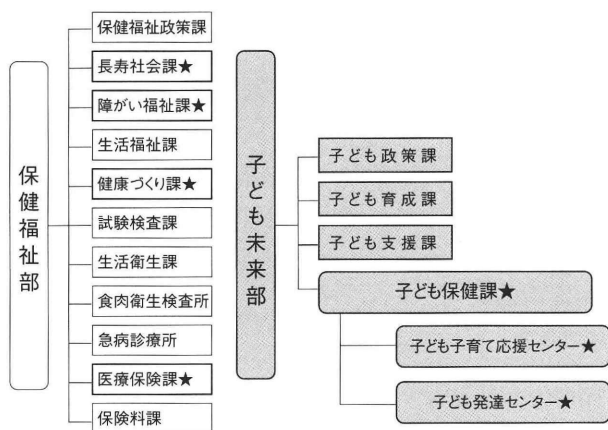


図1 佐世保市の保健師配置

の課に保健師が配置されており、同じ建物の中にあるため連携しやすい状況にあります。

佐世保市の母子保健体制

子ども保健課：妊婦、乳幼児の母子保健に関すること。乳幼児健診、各種教室、育児相談、訪問指導。

子ども子育て応援センター：0歳から概ね18歳までの総合相談窓口。虐待、養育困難のハイリスクケースの対応。

子ども発達センター：子どもの発育、発達に関する療育機関。

図2は、本市の母子保健システムフロー図です。母子健康手帳発行は、日程を決めて実施し、その際保健指導を行っています。出産後は「児童虐待予防の産科医療機関との連携事業」により早期にハイリスクの方への対応を行っています。生後2か月頃に行う乳幼児家庭全戸訪問は、主に子育てサポーターを中心に行っています。虐待ハイリスク等の家庭には養育支援事業により、育児や家事の支援も実施しています。次に健康診査についてですが、集団健診は4か月児、1歳6か月児、3歳6か月児で実施し、1か月と10か月頃は県内の小児科に健診を委託しています。健診で気になる所見があった場合は、経過健診や発達健診などの2次健診を、また、5歳児発達相談も自前で実施しています。育児相談としては、10か月児で実施するほか、市内の子育て支援センター等で行われています。複雑化した悩みは臨床心理士による個別の相談も行っています。最後に連携についてですが、小児科、精神科、

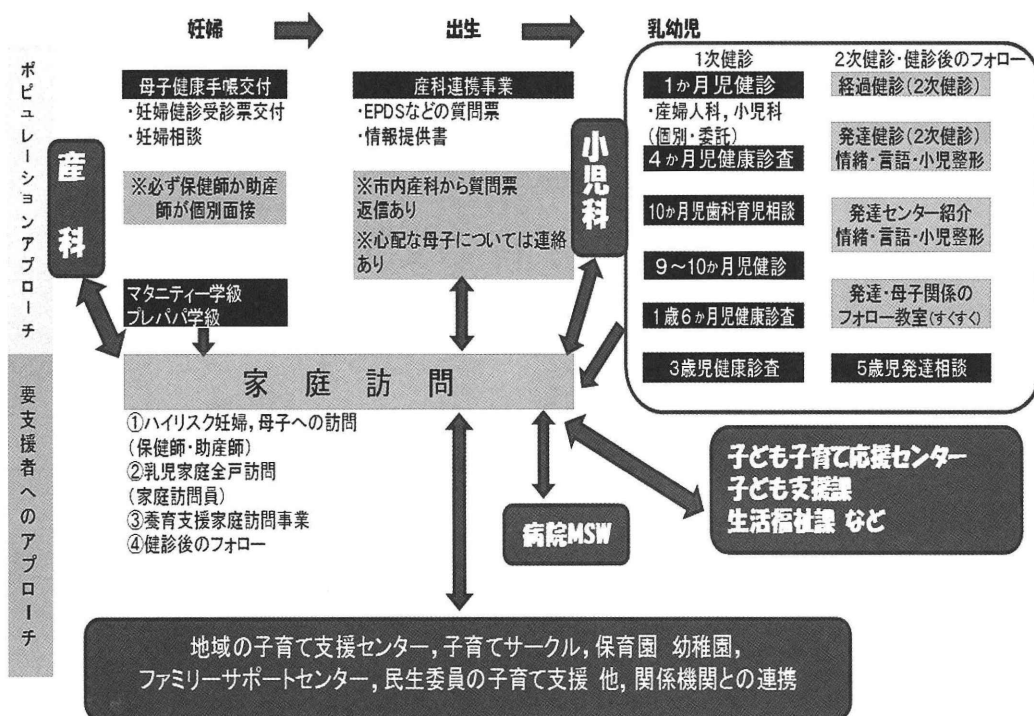


図2 母子保健システムフロー図

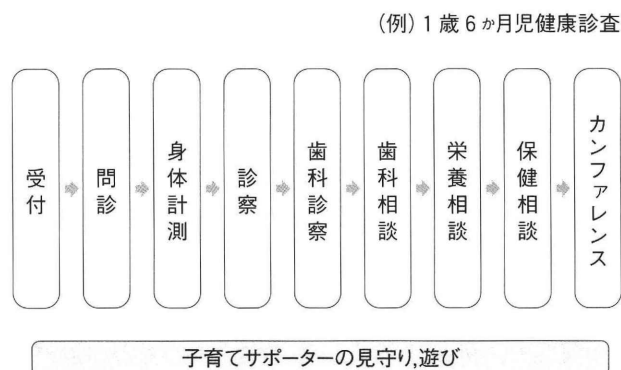


図3 健診の流れ

当市の他課との連携もさることながら, 同じフロアーに, 子ども子育て応援センター, 保育園等の申し込みの担当課があるため, 総合的に連携が取れています。

妊婦相談(母子健康手帳発行)時におけるフォロー内容は, 高年初産の相談が最も多く, 不妊治療で妊娠し, 不安感が強い方への支援が増えています。精神面では未入籍等で, 今後の出産, 育児の不安がある方や生育環境から精神的に不安定な方が含まれます。

図3は健診の流れについて示しています。1回の健診で約50~60人受診します。親自身の子育てについてのSOSを安心して出せる場になることが大切と考え

ています。待っている親子の素の場面での状態の観察も重要で, サポーターから気になる親子がいなかったかなど聞き取ります。問診ではアセスメント力が重要で, 子どもの発達の確認と同時に, 母親の心と体の状態や育児の負担感, 父親の育児の協力, 就園状況等, 育児環境を聞き取り, 親の表情や子どもの様子と合わせて判断し, 相談内容や最後の保健相談につなげるポイントを的確に把握することを重視しています。システム化しているため, 対象児だけでなくきょうだい児の様子や今までのフォローの経過が確認できます。保健相談では健診結果の説明を行います。ここで最後になるため, 親もほっとして問診の時には話さなかった子育ての悩みや家庭状況など話すことも多くみられます。スタッフのカンファレンスは健診の各担当が気になった親子について今後の継続支援の必要性の有無や支援方法等の方針について意見を出し合い決定します。ここも健診の中で重要な部分と考えています。

乳幼児健診は全国的にもほぼ90%以上の受診率を保っています。健診未受診者には虐待ハイリスクや養育困難な家庭状況の親子も多いと考えられるため, 電話や封書, 訪問での状況確認を行っています(表1)。

乳幼児健診の時に実施しているアンケート結果です(図4)。「子育てがとても楽しい」と答えた母親の割合

表1 親が健診に求めるニーズ

- 子どもの成長や健康を確認できる
- 育児の不安が気軽に聞け、子どもの発達や個性に応じた具体的なアドバイスがもらえる
- 母の気持ちに寄り添い、よく話を聞き受容されることで、今後の育児に希望や自信が持てる
- 必要な事後フォローを受けられる
- 経済困窮や母親の心身の問題、家族の問題等子育て環境の生活全体について相談できる

表2 健診に求められる役割と今後の課題

- 健診場面が子育て支援につながっていると感じる場面
- 虐待予防のため、育児不安や孤立した育児の早期発見、支援の強化
- 発達障害の早期発見と適切な療育のためのシステムや親子関係への支援
- 健診後のカンファレンスやフォローアップ体制の強化
- 親の心の支援や親育て支援の強化
- 地域の子育て支援サービスとの連携強化

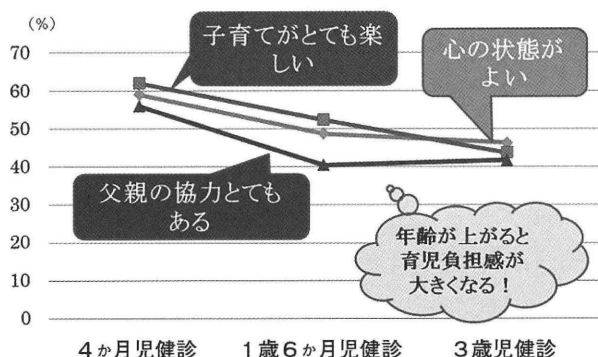


図4 乳幼児健診アンケートの結果



図5 保健師が会える母親の姿

合は4か月児健診では、62%ですが、3歳児になると43.6%に低下します。心の状態は、ほぼこの結果に比例しています。そして、父親の協力も「とてもある」のは、4か月児健診では56%ですが、1歳6か月児が最も低く、約40%に低下します。これは、年齢が上がると、きょうだい児の子育ての大変さが増えたり、仕事に復帰して育児と仕事との両立で大変と、周囲の環境要因も大きいようです。子どもの発達段階に応じて、育児の負担感も次第に大きくなっていることがわかります。

母親から語られる言葉はこのようなことがあります(図5)。

- ・支援センターがあるのは知っているけど、行くとペースが乱れるので疲れる。人と話すのが苦手。わからないことは検索して調べるので大丈夫。実際に、数年前と比べると電話相談の数が減ったように感じます。
- ・人付き合いが疲れるという一方で、夫や実家にはなかなか頼れない環境にある場合などでは、子どもと二人きりで気分が滅入り、イライラしてしまう。
- ・人付き合いは面倒なことも多いけど、本来、人間は自分の話を聞いてほしいと思っているのではないかと思います。

このような母親の中に、後日、メール相談や泣きながら電話相談して来られる方がいらっしゃいます。

健診場面が子育て支援につながっていると感じる場面

(表2)

日々、育児・家事・仕事に追われている母親は心に余裕がない中で頑張っていますが、それは母親として当然のことと周りには思っている傾向にあり、頑張っていることを認めてもらえる機会が少ないといえます。また、核家族化で、密室で育児をしている母親は、一見元気そうに振舞っていても、本当のきつさを吐き出せる相手がいなくても多いようです。

健診の場で、当たり前のことを当たり前にかけていることを褒められたり、認められたりすることで、ほっとされ保健師の「お母さん、頑張っていますね」の一言で、ほろりと涙を流される場面によく出会います。

第2子以降の悩みの中で、上の子の対応にイライラしているお母さんに対して、「イライラすることは当然ですよ、大変ですもの、上の子が赤ちゃん返りをしてお母さんに甘えるのは、お母さんの育児の大成功の証である」ことを伝えると「話を聞いてもらってよかつ

た、上の子を大事にします」との言葉が聞かれます。健診の場が、たまった思いを吐き出せる場になっていると感じる場面です。

育児は、自分と自分の母親との関係など、育った環境の記憶のふたが開き、思い起こし、自分の子どもの育児に向かうことを余儀なくされます。いろいろな事情により、自分自身が親に甘えた記憶がないと語る母親は、自分自身子どもが可愛いと思えなかったり、育児不安が強い場合があります。また、育った環境の違う父親との育児への考え方の違い、協力が得られない、DV、経済困窮、父方祖父母との育児の考え方の相違など、健診の場ではさまざまな悩みを抱えた母親に出会います。また、児の言葉の遅れや身体の問題などで傷ついている母親もいるでしょう。そうした母親や子どもの様子をキャッチし、その痛みに共鳴し、寄り添い、その健診後のフォローをどのように組み立て支援していくかというところが、保健師の役割となってきます。

健診後のカンファレンスで気になる母子のことを出し合い、検討することで、保健師の母子の見立て、対

応のスキルを高める場となっています。その後の訪問や支援の方法を学んでいくことができています。

また、虐待傾向やDVがあるケースは子ども子育て応援センター、発達に問題がある場合は、子ども発達センター、親に精神・知的障害があれば、障害福祉課、経済困窮は社協、生活福祉課、育児不安があれば、地域の子育て支援センター等と連携を図り、必要に応じて、「要保護児童対策地域協議会」の個別会議で検討、各関係機関の役割分担をしながら、支援にあたっています。

佐世保市の子ども支援の母体は、平成11年頃に、保健師の地区活動の中から、子育てサポーターの養成、サポーターや民生委員による子育てサークルの育成、サークルネットワーク立ち上げを行い、その後、保育士による子育て支援センターへシフトしていきました。また、サポーターは、実力をつけ、家庭訪問員や養育訪問支援員等で活躍し、地域に根ざした支援を行っています。

今後も子育て支援につながるような健診のあり方を工夫し、親子に寄り添っていければと考えています。